



World Rowing Final Olympic Qualification Regatta & World Rowing Cup II 参加報告

神奈川県ボート協会 (World Rowing Umpire) 隈元幸治

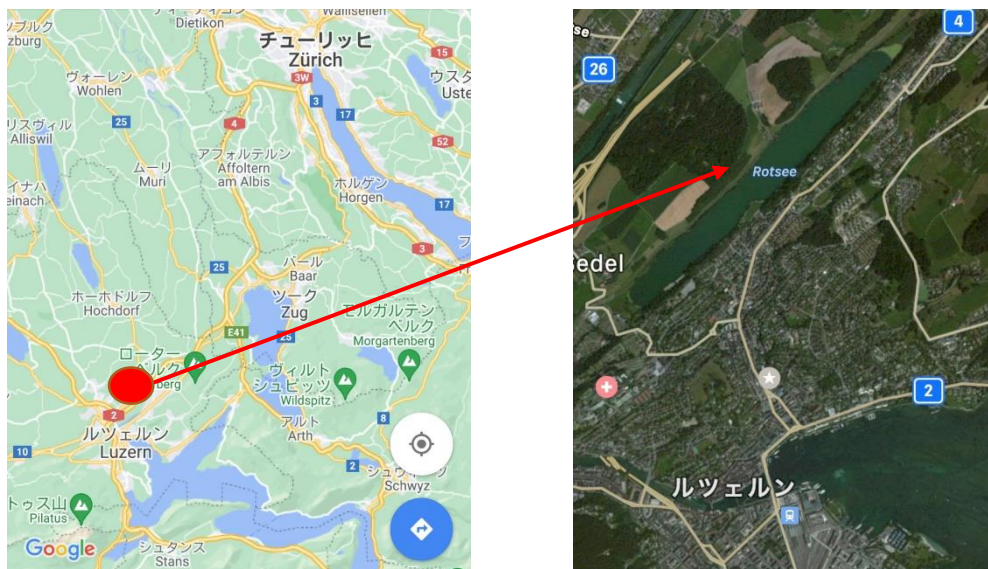
1 はじめに

全世界で新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が感染拡大している状況の中で、昨年延期となった東京オリンピックの世界最終予選となる World Rowing Final Olympic Qualification Regatta (FOQR) と同会場で連続開催された World Rowing Cup II の 2 大会に参加しましたので、コロナ対策に関する渡航手続き及び大会での対応を含めて、大会における活動について、報告します。

2 会 場

毎年、World Rowing Cup III が開催されるロート湖 (Rotsee) は、スイスのルツェルンの北端にある自然の湖です。長さは 2,400m でほとんど流れがなく、近くの丘によって風から保護されているため理想的なボート競技場で、1933 年に最初のレガッタが開催されたそうです。

コース対岸の丘の斜面には、牛が放牧されており、カウベルの音が響き、スイス国鉄の電車が行きかうなど、景色の素晴らしいコースです。



Rotsee 湖

3 World Rowing Final Olympic Qualification Regatta 大会概要

(1) 期 日 2021 年 5 月 15 (土) 日 ~ 17 日 (月)

(2) 種 目 オリンピック種目である男女 14 種目が行われ、それぞれ上位 2 か国が

オリンピック出場権を獲得（既取得国に棄権が出て LW 2 × のみ 3 位まで）

（3）参加国・参加クルー数 50 か国 163 艇 419 人

4 World Rowing Cup II 大会概要

（1）期 日 2021 年 5 月 21 日（金）～ 23 日（日）

（2）種 目 男子：LM1x、LM2x、M1x、M2-, M2x、M4-, M4x、M8+ の 8 種目

女子：LW1x、LW2x、W1x、W2-, W2x、W4-, W4x の 7 種目

（3）参加国・参加クルー数 39 か国 171 艇 355 人

5 参加審判員

（1）FOQR

POJ:Gabrielle ISENSCHMID-WEBER(SUI)

World Rowing Umpiring Commission: Angela Alonso FERNANDEZ(ESP)

N a m e	Nation	NO.	N a m e	Nation	No
ANDERSEN Cathrine	DEN	1789	BORQUEZ Rodrigo Andres	CHI	1703
DENNIS Fiona	GBR	1410	DIAMOUAWA Martine	CMR	1520
GRAMATTER Volker	GER	1203	GUENTER Urs	SUI	1093
KUMAMOTO Koji	JPN	1371	LOKKER Bram	NED	1769
MENTZER Sven	SUI	1727	SAMIOU Niki	GRE	1440
SCHUBIGER Maximilian	SUI	1572	SEQUEIRA-BYRON Patrick	SUI	1573
SIKETTO Maura	ITA	1737	SPOOR Humphrey	SUI	1603
TRIVIC Ozren	CRO	1584	VAN STEENWIJK Gijs	SUI	1320
ZWAHLEN Michael	SUI	1774	JORY Regis	SUI	1472

（2）World Rowing Cup II

POJ:JORY Regis(SUI)

World Rowing Umpiring Commission:

Gabrielle ISENSCHMID-WEBER (SUI)、 Angela Alonso FERNANDEZ(ESP)

N a m e	Nation	NO.	N a m e	Nation	No
ANDERSEN Cathrine	DEN	1789	BORQUEZ Rodrigo Andres	CHI	1703
DENNIS Fiona	GBR	1410	DIAMOUAWA Martine	CMR	1520
GRAMATTER Volker	GER	1203	GUENTER Urs	SUI	1093
KUMAMOTO Koji	JPN	1371	LOKKER Bram	NED	1769
NEYROUD Blaise	SUI	1222	SAMIOU Niki	GRE	1440
SCHUBIGER Maximilian	SUI	1572	SEQUEIRA-BYRON Patrick	SUI	1573
SIKETTO Maura	ITA	1737	SPOOR Humphrey	SUI	1603
STAMFLI Clemens	SUI	1773	TRIVIC Ozren	CRO	1584
VAN STEENWIJK Gijs	SUI	1320	JORY Regis	SUI	1472



Jury 2021



ITO (グループ別で撮影)

6 担当部署

両大会を通じて、コロナ対策の観点から、通常の部署ローテーションはなく、1大会1部署（エリア）で部署配置が行われました。

(1) FOQR

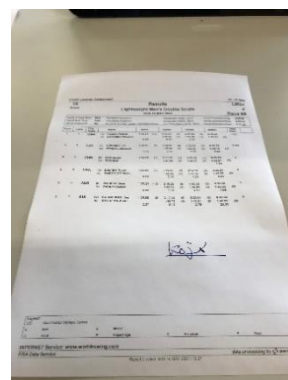
Finishエリアでの業務で、Finish Towerに位置して、Finish Responsibleとして、Photo Finishの画面を見ながら、全レースのResultにサインし、Resultを確定する業務を担当しました。



Finish Tower



Photo Finish Display



Result 確定



Finish Responsible Desk



ITO & NTO

(2) World Rowing Cup II

Start エリアでの業務で、エリアに配置された ITO 3 名で、Starter、Assistant Starter、Judge at the start の業務をローテーションで担当しました。

私自身、これまでに経験のない 1 大会で 40 レースを超えるレースの starter を務める機会を得ることができました。また、Final は BBC などのテレビで生中継されました。



Start Tower



Start System



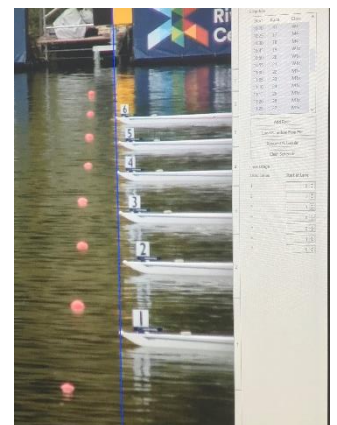
Start Pontoon (JPN Crew)



Judge at the Start System



Start Pontoon



Aligner Display

7 コロナ対策

(1) 渡航前

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大により、開催地スイスへの日本からの入国については、原則として認められていませんが、国際スポーツ大会等への選手等は、特別に入国が認められることになっています。通常、日本からの入国では、VISA の取得は必要ありませんが、入国時のトラブルを回避するために、在日スイス大使館に問い合わせして、OC から発行してもらった Invitation Letter、パスポートのコピー、Air Ticket などの書類を提出して、Laissez-Passer（通行手形）を発行してもらった。

また、航空機の搭乗、スイスの入国には、出国前 72 時間以内の PCR 検査の陰性証明書が必要なことから、出国日の朝、成田空港にある日本医科大学 PCR 検査センターで受験して、証明書を取得した。なお、証明書の発行には、30,000 円の費用と 4 時間を要した。

(2) 航空機搭乗時、出国時

チェックインでは、カウンターにおいて、通常の手続きに加えて、PCR 検査陰性証明書の提示と合わせて、スイスへの入国条件に合致しているかを入念に確認された。組織委員会からの Invitation Letter や Laissez-Passer（通行手形）を提示したが、航空会社が保有しているチェックリストでは入国許可項目に該当しないとの見解であった。

そこで、現地スイス当局に確認する必要があるとのことで、1 時間待たされ、ようやく承認がおりて、チェックインすることができた。

空港ターミナルは、ほとんどの店舗やレストランが営業しておらず、閑散としていた。

(3) スイス入国時

入国審査は大変厳しいものと想定していたが、通常の審査と変わりなく、入国目的を示す組織委員会からの Invitation Letter や World Rowing の Event Umpire list を提示し、さらに帰りの航空券、宿泊ホテルを提示して、入国が許可された。手続き終了後、Umpire ということで、激励を受けた。

(4) 滞在ホテル

Luzern の World Cup の審判員宿舎は、毎回、Gisikon-Root 駅近くの Garni an der Ruess と決まっているが、今回は、コロナ対策から、審判員を 2 グループに分割して、別のグループは隣の駅前のホテルが割り当てられた。

2 つのグループに分かれた審判員は、大会期間中、一緒になることはなく、Jury Meeting、Umpire Seminar も個別にそれぞれのホテルで実施され、参加審判員全員での交流はできず、大変、残念であった。

(5) Accreditation Card の発行

2つの大会が開催されたが、それぞれの大会ごとに、Accreditation Card が交付された。交付には、健康調査表、72時間以内のPCR検査陰性証明書が必要で、FOQRでは、出国時・入国時の証明書を、World Cup IIでは大会開始前々日にホテルでPCR検査が実施され、その陰性証明書と改めての健康調査表の提出により交付された。

なお、Accreditation Cardには、QRコードが印刷されており、Venueのそれぞれのエリアに入る際に、監視員がゲートで体温を計測し、QRコードをスマホで読み取り、各エリアでの入場管理が行われていた。



(6) Venue の区分

Venueは、①Start、②Boatstrage、③Finishの3つのエリアに区分され、エリアの周囲はフェンスで囲われ、それぞれのエリア間の移動は禁止されていた。

特に、Crewが活動する②Boatstrageへの入退場が厳格に管理されていた。

(7) Venue への移動

審判員のホテルからVenueへの移動は、それぞれの部署配置エリアごとに、個別のシャトルバス（コロナ対策として運転席と座席をシートで区分）が運行されレース終了後も同様に、エリアゲートに個別の車両が迎えに来た。

Crewは、毎年のWorld Cupと同様に、それぞれのチームが個別に確保した市内のホテルに宿泊しているが、ホテルからVenueへは、バスなどの公共交通機関（ホテルからパスを交付）を利用するか、個別に手配した車両での移動となっており、公共交通機関の利用には、バブル方式としては、違和感を感じるものであった。

なお、大会参加者はホテルから街中への出入り、ショップやレストランの利用の自粛が求められていた。

(8) メダルセレモニー

Finalのレース終了後のメダルセレモニーは、プレゼンターがメダルを授与する方式ではなく、それぞれのクルーがテーブルに置かれたメダルを各自が取りに行く形式で行われた。

(9) 帰国用PCR検査

帰国便への搭乗や日本入国には、PCR検査の陰性証明書が必要となることから、大会組織委員会がVenueに民間検査機関の出張検査所を設置して、検査を受けることができた。検査費用についても、組織委員会が負担してくれた。

陰性証明書は、検査後24時間以内に、登録したメールアドレスに送付されるが、日本の検疫所では、所定の様式が定められていることから、検査時に様式を

渡して、検査機関の証明書に加えて、日本の様式でも発行をお願いした。

8 大会運営

FOQR は、5/15～17の3日間でのレーススケジュールとなっていたが、最終日、荒天が予想されたことから、World Rowing Fairness Committee の判断により東京海の森で開催されたアジア・オセアニア オリンピック/パラリンピック大陸予選と同様に、15、16日の2日間に短縮して実施され、所定のオリンピック出場国を、良好なレースコンディションの中で決定することができた。

9 日本チームの成績

(1) FOQR にはW1x とLM2x の2クルーが出場

W1x : Heat 1位で Final Aに進み、最後まで健闘したが、惜しくも3位となり残念ながら出場権獲得はできなかった。

LM2x : Heat 3位、Repechage 3位、Semifinal 5位

(2) World Cup II には大陸予選でオリンピック出場権を獲得したM1x とLW2xに加えて、LW1x、LM1x の4クルーが出場

M1x : Heat 3位、Q-final 2位、Semi-final 4位、最終9位

LW2x : Final A 6位

LW1x : Heat 4位、Repechage 4位、最終13位

LM1x : Heat 5位、Repechage 3位、Semifinal 6位、最終12位

10 帰国後の検疫等

日本到着後、まず、入国前に、検疫措置として、抗原検査が実施されます。検査結果が分かるまでには1時間以上を要するため、その間に14日間の健康確認や所定の居場所での滞在確認等を行うために、自分の携帯に3種類のアプリをダウンロードすることを求められ、それらの誓約書の提出とそれぞれのアプリの動作確認が行われました。その後、検査結果が通知され、Negativeと記載された Quarantine Card が渡され、自動化入国ゲートを通過して、入国しました。

入国後、Baggage を受け取り、感染拡大地域からの入国に該当するため、検疫所が確保する宿泊施設に3日間隔離されました。隔離中は、毎朝、体温測定を行い、メールで報告することが求められ、自分の部屋からは一歩も外に出ることはできませんでした。

食事は、3食とも、時間になると配膳開始の放送が行われ、すべての部屋のドアノブに配膳が終わると、受け取るように指示があり、食事を取るようになります。



Quarantine Card

入国の翌日から3日目の朝に、PCR検査が行われ、夕方、その結果が出て、陰性となったので、宿泊施設から退所することが認められました。

退所後も、14日間の残り12日間の自己隔離が求められることから、空港近くのホテルで待機して、期間の満了を経て、帰宅できました。

ホテルでの自己隔離期間中は、検疫所から、ダウンロードした携帯のアプリを通じて、毎日、不定期に連絡があり、それに返答することが求められます。

外国からの変異株流入の水際対策として、必要な措置と考えますが、長い期間の対応であり、大変でした。

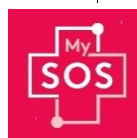
(参考)

ダウンロードアプリ

OVERSEA ENTRANTS LOCATOR(現在地報告)



ビデオ通話アプリ My SOS(入国者健康確認センター)|



COCOA(新型コロナウイルス接触確認アプリ)|



Google Map での位置情報設定・保存

11 終わりに

これまで、何回も World Rowing や A R F の大会に参加したが、今回は、大会においても、これまでにない異例の運営形態であったこと、海外渡航（検疫措置等）がこれほど大変なものであることを実感した。

コロナが一日も早く収束することを願うとともに、東京オリンピック／パラリンピックの成功に向けて、今回の経験も活かしながら、N T O として担当業務を果たしていきたい。

最後に、今回の派遣にあたり、ご支援・ご協力をいただいた関係の皆様には感謝申し上げます。